

# 大学英語教育的視点からの異文化交流の試み 異文化交流科目：海外英語演習について

## A Trial for Cross Cultural Communication in Terms of College English Education Cross Cultural Subject : “ Studying Abroad ”

山 本 健 一  
Kenichi YAMAMOTO

吉 田 恒 義  
Tsuneyoshi YOSHIDA

大 橋 真由美  
Mayumi OHASHI

### Abstract

Since 1992, the authors and students have been studying how to communicate with the people in foreign countries by joining the summer language program, “Studying Abroad”, at Thomas More College in Cincinnati Ohio, in the United States. Our students have learned that it is important to transmit their own ideas, opinions and cultural understanding toward the foreign people through the program of “Studying Abroad”. Since 2003, we have started another summer language program at Kapiolani Community College of University of Hawaii in Honolulu, Hawaii. These projects of cross cultural communication joining the summer language program at Thomas More College and Kapiolani Community College of University of Hawaii is going well successfully so far. Through the projects, we have come to understand that the experience of studying abroad can lead our students to a higher level of communication between different cultures.

キーワード：異文化交流、語学研修、英米文化、留学

### I はじめに

国際化の時代において、このところ、日本人の海外旅行に対する興味は不景気な世相であるにも関わらず、増加の一途をたどり、旅行者は年間約1千数百万人を数えるとのことである。本学英語英文学科においても、語学研修という目的で海外に短期滞在を希望する学生が増えてきたことを考慮し、1992年度から、海外語学研修プログラム（海外英語演習・選択2単位）を実施している。

現在、岐阜市は中国の杭州、イタリアのフィレンツェ、ブラジルのカンピーナス、そしてアメリカ合衆国・オハイオ州のシンシナティなどの都市と姉妹都市提携を結び、国際交流を進めている。

このような国際親善、異文化交流の一環として、本学英語英文学科では、アメリカ合衆国・オハイオ州のシンシナティ市郊外に位置するトマス・モア大学を学术交流及び英文学科学生の海外語学研修の受け入れ先として協定し、1992年度から約20名度の学生が毎年、海外英語演習に参加してきている。

2003年の夏からは、ハワイ大学カピオラニ校とも協定を結び、英文学科学生の海外語学研修の受け入れ先として締結し、海外英語演習授業（選択2単位）としてカリキュラムに組み入れることとなった。

1992年以降、約11年間に渡り海外語学研修プログラムを実施してきたが、本稿では、この間の学生たちの留学体験を写真や感想文などを通して、大学英語教育における異文化交流の試みを紹介する。

### II トマス・モア大学との海外英語演習

#### 2.1 短期留学（3週間）プログラム： 海外英語演習

##### 2.1.1 トマス・モア大学について

トマス・モア大学はオハイオ州シンシナティ市の郊外（実際にはオハイオ川をはさんでケンタッキー州側のクレストビュー・ヒルズ市にある）に位置する私立の4年制大学で、芸術、教育学、科学、看護学など17学部（1400人）にわたるコースを持っている。1921年に創立され、地域社会に有為の卒業生を輩出している。

岐阜市立女子短期大学英文学科は1992年にトマス・モア大学と姉妹校提携を結び、国際交流の一環として夏季英語研修を実施し、大きな成果を上げている。

## 2. 1. 2 海外英語演習について

### 取得単位

海外英語演習科目は、岐阜市の姉妹都市であるシンシナティ市の郊外にある四年制のトマス・モア大学で、7月中旬から8月初旬の約3週間にわたって開講される。受講者で、所定の基準を満たし、同大学の2単位を取得した者は、本学英語英文学科専門科目の選択2単位として認定する。

毎年、1名の英文学科教員が付き添いとして、同行していたが、2002年度からは、付き添いは外部に委託する形にした。参加学生は毎年、20～30名程度である。

### 講義内容とフィールドトリップ

午前中は、英会話や英作文などの実用英語を中心に、アメリカ史など英語文化の背景をも学び、午後は、シンシナティ市内および郊外の美術館、博物館、名所・旧跡などを訪れる。

実際のアメリカの大学の講義を理解することができるようになり、実用英語の運用能力が高まり、アメリカの風俗・習慣などの文化にじかに触れることができることから、受講者に好評を博している。

トマス・モア大学の先生方及びスタッフの方々はみなさん親切で、暖かく迎えてくれる。彼らを通して、アメリカ人の人間性に触れることができる。

## 2. 1. 3 体験授業に関する写真

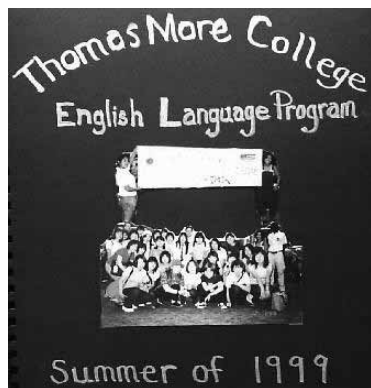


図1 Thomas More College



図2 Thomas More College

## 2. 1. 4 学生の留学体験に関する感想

英語英文学科 学生

大学の授業は、日常英会話が中心で、他に、ニュースを見てその概要をまとめたり、現地の人々にインタビューをしたりした。また、英語で日記をつけ、エッセイを書くという課題もあった。思い切って英語で発言すると、先生方も熱心に耳を傾けてくださるので、積極的に授業に参加できた。好天の日には屋外で授業を受けることもあった。ウサギやリスがはね回っている大学の芝生はとてもきれいで、夜には蛍が飛び交う姿を見て感動した。

授業のないときには、トマス・モア大学の学生スタッフと一緒にフィールド・トリップに出かけた。教会、図書館、音楽堂、美術館、博物館、テーマパーク、ショッピング・モールなど、様々な場所を訪れ、米国社会の文化、歴史、そしていろいろな人々に直に触れることができ、感激した。また、各種のパーティに参加し、米国人スタッフその関係者の人たちと交流を深めることができた。

大学の寮に滞在していたので、夜にはスタッフの人たちと一緒にゲームをしたり、映画を観たり、夜が更けるまでいろいろな事について語り合った。うまく意志疎通ができずに悔しい思いをしたこともあったが、辞書を片手に懸命に英語を話し、時には彼らに簡単な日本語を教えてあげ、お互いに理解し合おうと一生懸命だった。

### 大学英語教育的視点からの異文化交流の試み

「国際交流」のために特別なことをした訳ではないが、お互い理解し合おうとするうちにいつしか打ち解け合い、国籍の違いなど気にせず友達としてごく自然に話をしたり遊んだりした。今後の自分の人生に、この貴重な体験を生かしていきたいと思う。

#### 2.2 長期留学（2年間）プログラム： 3年次編入学

また、1994年度より同大学の国際関係学科（International Studies）への3年次編入（学士号取得可）も可能となっている。現在、3人の学生が3年次編入後、2年間の学習課程を経て卒業し、トマス・モア大学の学士号を得ている。3人とも帰国後、日本の企業に就職し、アメリカ留学経験を生かした仕事に従事している。また、2003年10月の時点で、3人の英語英文学科卒業生がトマス・モア大学に在学し、留学中である。

#### 2.3 中期留学（16週間）プログラム： 1セメスター留学（毎年8月～12月までの4ヶ月間）

セメスター制を目指したカリキュラム改正案および国際交流プログラム（中期海外留学）の推進案

これまで英語英文学科は人材育成目標として①異文化間コミュニケーション能力の養成、②英語運用能力の強化、③情報技術の習得を挙げ、目標達成に力を入れてきた結果、それぞれ成果が上がりつつある。

国際化の時代にあって、英米の言語、英米文化、英米文学に関する学問的知識を習得し、英米人に対する理解と尊敬を通じて彼らとコミュニケーションでき得る人材を育成するために、1992年からカリキュラムの中に1年生を対象とした海外英語演習（選択2単位）を設置し、これまでに10回の短期留学を実施している。

海外英語演習科目は、岐阜市の姉妹都市であるシンシナティ市の郊外にあるトマス・モア大学で、7月下旬から8月中旬の約3週間にわたって開講される。受講者で、所定の基準を満たし、同大学の2単位を取得した者は、本学英文学科専門科目の選択2単位として認定する。毎年約20名ほどの参加者があり、毎回好評を博している。

また、海外4年制大学への3年次編入学促進の結果、1994年以降、トマス・モア大学国際関係学部への3年次編入は4名にのぼる。今後も編入学を促進する予定である。

こうしたこれまで10年におよぶ国際交流の成果を踏まえ、更なる国際交流の強化を目指して、以下のように中期海外留学（16週間）のプログラムを立案した。同時にセメスター制導入を目指して、カリキュラム改正を実施した。

##### 1. セメスター制を目指したカリキュラム改正案

2. 海外交流プログラム：トマス・モア大学 ESL（第2外国語としての英語）16週間プログラムを利用する。対象は英語英文学科1年生。

3. 単位認定：トマス・モア大学10科目18単位を履修し、それを本学英語英文学科の10科目12単位として読み替え、認定する。

4. 期間：8月19日～12月27日（授業は8月21日～12月11日）

\* なお、国際交流プログラム（中期海外留学）：トマス・モア大学 ESL（第2外国語としての英語）16週間プログラムに参加した学生は、平成14年度は4名であった。

#### 2.4 体験授業に関する写真



図3 Thomas More College



図4 Thomas More College

## 2.5 学生の留学体験に関する感想

ESL (English as a Second Language) に参加して

英語英文学科 学生

ESL の授業が始まる前まで、私は不安でいっぱいでした。どんな厳しい授業が待っているのだろう、ちゃんとついていけるだろうか。ずっとそんなことを考えていました。しかし、私たちを待っていたのは厳しい授業でもつらい授業でもなく、「楽しい授業」でした。「楽しい」というのは、「楽」という意味ではなく、日本では経験することの出来ない「ワクワクに満ちた授業」だという意味です。

私たちの先生であったステファニーは、私たちに「あなたたちが日本では出来ないようなことをこの授業でやりたい。教室に閉じこもって教科書を読むのも確かに勉強だけど、そんなことはやろうと思えば日本でいくらでも出来る。4ヶ月というのは短いから、その間に少しでも多くのことを経験してほしい。」と言って、私たちを様々な場所へ連れて行ってくれました。ア・トミュージアムや、動物園、教会など。そういった場所へ行った後は、その感廓を私たちに聞いてくるのです。そうして、ステファニー先生とコミ4ニケーションをとることによって、英語を話すことに少しずつ自信がついていきました。そしてもちろん課題もありました。課題といってもいろいろな種類がありましたが、私が特に好きだった課題は、エッセイを書くことでした。図書館に行き、沢山の新聞や雑誌の中から自分の好きな記事を選んで、そのことについて説明し、自分の意見を述べるのです。そして、みんなで話し合います。ES 私の授業は私たち日本人の4人しかいなかったのも、授業環境は最高でした。一人・人の意見を聞くことが出来たし、ステファニー先生が私たちをいろいろなところへ連れ出すことが出来たのも、生徒が私たち4人だけだったからだと思いま ステファニー先生はときどきベグルショップでリラックスしながら授業をしようと言って、私たちを外へ連れ出してくれました。ベグルショップに行くのは楽しそうというのではなく、飲食店で自分の欲しいものを注文するという、日常英会話の練習になるからです。最初は注文することだけでも緊張したり英語が聞き取れなかったり、ということがありました。でも、そういうことを繰り返しているうちに、段々とスムーズに注文することが出来るようになりました。こうして、英語を話したり聞いたりすることに慣れるようになると、今度は小学校で子供たちに折り紙を教えるのはどうか、という話を私たちに持ち出してくれました。もちろん私たちは喜んで教えに行きました。子供たちに分かるように英語で教えるのは少し大変だったけれど、折り終わったときの子供たちの笑顔は今でも忘れられません。

ステファニー先生から教えてもらったこと、そしてアメリカで経験してきたことは私の一生の宝物です。英語を勉強することの意味をアメリカに行き行って実感することが出来ました。そして、英語も物と同じで使わなければどんなに勉強していても何の意味も果たさないということが分かりました。例えばどんなに下手でも、恥ずかしがらずに進んで多くの人とコミュニケーションをとることで、英語というものは意味をなすのだと思いました。

### Ⅲ ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジとの海外英語演習

## 3.1 海外英語演習の内容

ハワイ大学・カピオラニ・コミュニティカレッジにおける海外英語演習

目的：アメリカ、ハワイ州のハワイ大学・カピオラニ・コミュニティカレッジに夏期語学研修を実施し、英会話運用能力の向上を目指すと共に、アメリカの文化・歴史に直接触れ、且つ当校との国際交流を深めることを目的とする。この演習に参加した学生は、本学の「海外英語演習」科目2単位を与える。

実施期間：平成15年7月31日(木)～8月19日(火)

場所：University of Hawaii: Kapiolani Community College

4303 Diamond Head Road

Honolulu, Hawaii 96816

U.S.A

参加学生：英語英文学科 1年生および2年生

授業科目：英会話、英文法、英作文、アメリカ史、ハワイ文化史、

授業内容：アメリカ史、比較文化論、時事英語、ESL(第二言語としての英語教育)などの担当教授陣から以下のような授業を受

ける予定である。

- 1 . Use English to carry out daily activities.
- 2 . Express their ideas about topics related to American culture, Hawaii, and globalization.
- 3 . Know how to use computers to do word processing and e-mail and to access the Internet.
- 4 . Know about the multicultural history of the state of Hawaii.
- 5 . Know some basic economic and social issues facing the world in the 21<sup>st</sup> century.
- 6 . Know the basic social conventions of modern American society.

#### ハワイ大学・カピオラニ・コミュニティカレッジ

概要：カピオラニ・コミュニティカレッジは学生数約18000人を誇るハワイ大学グループに属する大学である。アメリカ・ハワイ州・ホノルル市に設置されている教育、文学、芸術、科学、経済、法律、選択科目についての準学士号を授与する私立の二年制大学である。学生数約6700人、教授陣220人を数え、毎年優秀な人材を輩出している。

#### 3.2 体験授業に関する写真



図5 Kapiolani Community College



図6 Kapiolani Community College

#### 3.3 学生の留学体験に関する感想

英語英文学科 学生

Coordinators of KCC welcomed us in airport. And they showed us some tourist attractions. The scenery was really beautiful.

We went to school by bus. It took about 10 minutes. I was surprised how to get off the bus. It's different from Japan. When we want to get off, we push the button in Japan. But in Hawaii we had to pull the string.

I was surprised that the KCC campus is very big. It's larger than I have expected. There are many buildings and Hawaiian trees and flowers.

In English class, we could decide what to learn in first class. So we bought a book and read it every class. Our homework were keeping diary and reading the book by 1 chapter. Our class room teacher, Tony is very fun. He is like a friend to us. In class, we not only read the book but also played games and cards. Tony told us card game we didn't know. We enjoyed his class every time.

In other classes, we learned dancing hula, language and culture of Hawaii, and talked to students who study Japanese about difference of culture. Hula is traditional and holy dance. The movement of hip and arm looks gentle. But actually it's very hard dance. I wanted to dance hula again. I'm interested in Hawaiian language. It has warm sound. The more I know about Hawaii, the more I like Hawaii.

I think it was good chance to go on a field trip as a part pf class. It was difficult to visit tourist attraction ourselves. The locals explained a lot of things. Diamond Head is extinct volcano and 232 meters high. We started to climb Diamond Head at about 1 O'clock. It was very long way. It took one hour to climb the top of the Diamond Head. In addition, I have a fear of heights. So I was really scary and tired. The view was very beautiful. The sea was really clear. But I will never climb..... In Bishop Museum, we learned Hawaiian History and made lei. Making lei was very easy. It was really cute. I liked it.

We went shopping and beach in weekend. Because the coordinator told us how to ride a bus and bus number, we could go to places where we wanted to go.

### 大学英語教育的視点からの異文化交流の試み

Teachers in KCC were really kind to us. They brought us beautiful beach and famous places in Hawaii in weekend. Mr. Kiyohara was always concerned about us. He had the habit of saying “Are you OK??”

We often bought meals in convenience store. Locomoco is famous Hawaiian food. I tried it but it tastes not good. The quantity of meals in Hawaii were big. I often left part of the meal.

I didn't have problem about Hotel. There was bus stop near our hotel, so it's a great convenient. But elevator rides bad!! Whenever I took the elevator, I felt bad.

The weather was always nice and it was windy. I felt comfortable. I experienced Shower for the first time.

## IV 終わりに

1992年以降、約11年間に渡り、本学英語英文学科では、アメリカ合衆国・オハイオ州のシンシナティ市郊外に位置するトマス・モア大学を学術交流及び英文学科学生の海外語学研修の受け入れ先として協定し、1992年度から約20名度の学生が毎年、海外英語演習に参加してきている。2003年の夏からは、ハワイ大学カピオラニ校とも協定を結び、英文学科学生の海外語学研修の受け入れ先として締結し、海外英語演習授業（選択2単位）としてカリキュラムに組み入れることとなった。本稿では、この間の学生たちの留学体験を写真や感想文などを通して、大学英語教育における異文化交流の試みを紹介してきた。

上記のような海外語学研修プログラムを実施してきた結果、大学における英語教育的視点から見れば、これらの海外語学研修プログラムは、学生たちにとって異文化交流の体験を促進する良い機会となったと思われる。学生たちの体験談の一部を紹介すれば、「英語圏の文化、風俗、習慣、人々に直接触れることができた」、「英語で話をする勇気が持てた」、「世界観が広がった」、「アメリカ人の物の見方、考え方が理解できるようになった」など、異文化に直接触れることで異文化理解の重要性を再認識するといった学生たちの異文化学習効果がうかがわれ、この海外語学研修プログラムが学生たちに貴重な異文化体験をもたらしたと考えられる。

## V 参考文献

- 1) 影戸 誠『国際交流マニュアル』日本文教出版、2001
- 2) 内藤 徹『新しい英語教育ハンドブック』リーベル出版、1996
- 3) 西川 長夫『多文化主義・多言語主義の現在』人文書院、1997

(提出期日 平成15年12月10日)